北海道の
学校図書館

発　行　北海道学校図書館協会
会　長　齋藤　昇一
事務局長　黒澤　敏行
http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/
印刷所　㈱有伸商会
ＴＥＬ（011）814-6211

平成29年度 青少年読書感想文全道コンクール 入賞者決定!!

今年も全道から、たくさんの素晴らしい作品が集まりました。第１次、第２次審査を経て、入賞者が決定しました。12月３日(日)に晴れの表彰式が行われます。入賞者の皆さん、おめでとうございます。

第63回　青少年読書感想文全道コンクール
第43回　北海道指定図書読書感想文コンクール
特別賞入賞者一覧

北海道知事賞	＊約束	苫小牧市ウトナイ小	６年	久保　友櫻
	＊続けることで見えてくること	旭川市神楽中	２年	中島　瑠花
	＊未来の私のライフ	遺愛女子高	２年	館山　紋奈
北海道議会議長賞	＊「ほしてみた」	苫小牧市若草小	２年	佐藤　瞭真
	＊とらえられたイルカ	音更町木野東小	３年	清水　陸叶
	＊戦争とさくら	室蘭市喜門岱小	５年	髙澤真佑子
	・僕の「何か」を探したい	北嶺中	２年	芝木　美昭
	＊私の「深い河」	旭川藤女子高	２年	武井すみれ
北海道教育委員会教育長賞	・「とっておきの詩」 をよんで	室蘭市旭ヶ丘小	１年	坂本　天心
	＊「ウィリアムに教えてもらったこと」	室蘭市八丁平小	４年	安田　晴香
	・まだ無い答えを求めて	室蘭市白鳥台小	６年	山本　康生
	＊幸恵が果たした使命	室蘭市桜蘭中	１年	伏見　優花
	・農業の先に	遺愛女子高	３年	岸本佳奈子
北海道学校図書館協会長賞	・ふたつのゆびきりげんまん	室蘭市八丁平小	２年	新山　詠心
	・僕にできること	苫小牧市ウトナイ小	４年	山内　颯大
	・すべてのものが	森町濁川小	６年	平田　麗雄
	・スタートライン 一歩踏み出せば奇跡は起こる	岩見沢市光陵中	１年	高田　柚奈
	・アルジャーノンに花束を	士別翔雲高	１年	髙橋　実来
毎日新聞社賞	・「ソーニャのめんどり」をよんで	室蘭市八丁平小	２年	成島　幸花
	・サリバン先生の強い心	室蘭市八丁平小	３年	岡野　衣吹
	・大切にしたいつながり	室蘭市白鳥台小	６年	山本　寛生
	・伝えたい言葉	帯広市帯広第四中	１年	西島さくら
	・僕も歩もう一歩ずつ－祖父の情熱を胸に－	北海高	１年	小西　海翔
北海道読書推進運動協議会長賞	・わたしのいきたいすてきなところ	室蘭市八丁平小	１年	井上　華那
	・戦争と繋がる「今」	岩見沢市緑中	２年	太田口ゆず
	・「何を為すために生まれてきたのか」	滝川高	２年	田中　咲良
北海道青少年育成協会長賞	・「100年後の水を守る」を読んで	室蘭市水元小	６年	三村　建成
	・命の尊さ	鹿部町鹿部中	３年	髙本　弥生
北海道ＰＴＡ連合会長賞	・スイッチポン	森町濁川小	５年	小山穂乃果
北海道高等学校ＰＴＡ連合会長賞	・チーズを手に入れれば幸せになれる	岩見沢東高	１年	飯塚　純矢
北海道教育振興会長賞	・体と心をつくってくれる命	室蘭市八丁平小	２年	白川　聖七
	・私もキキのように－「魔女の宅急便」を読んで	音更町鈴蘭小	４年	宇野　仁海
	・「通じ合う心」	小樽市緑小	６年	寺田　智紀
	・憲法が私達を守る、私達が憲法を守る	遺愛女子中	２年	村上　紗可
	・「今を生きている」	遺愛女子高	１年	齋藤　彩花
北海道教育文化協会賞	・「死」と「いのち」と向き合うということ	札幌市宮の丘中	２年	牧野　桜
	・未来に向かって	遺愛女子高	１年	大山　芽依
はるにれ賞	・「このあとどうしちゃおう」を読んで	室蘭市八丁平小	３年	中居　琉南
教育出版社賞	・『レシピにたくした料理人の夢』を読んで	苫小牧市苫小牧東小	５年	渡辺　愛子
文研出版社賞	・「とびっきりのともだち」を読んで	士別市士別小	２年	髙島　佑介
北海道図書教材協会賞	・あきらめない強さ	札幌市桑園小	４年	岡　七海
図書館ネットワーク賞	・人間の知恵や工夫	上士幌町糠平小	４年	中村　桜介
北海教育評論社賞	・『希望の筆・金澤翔子物語』を読んで	滝川市東小	６年	横山　光
光陽社賞	・とびっきりの友だちを読んで	苫小牧市明野小	２年	山口　怜那

学校賞	小学校の部	室蘭市立八丁平小学校
	中学校の部	岩見沢市立光陵中学校
	高等学校の部	遺愛女子高等学校

＊は、全国コンクール応募作品です。（各部から代表～自由１点・課題１点）

北海道知事賞

約　　束

苫小牧市立ウトナイ小学校　６年　久　保　友　櫻

私には、お母さんとした大切な約束がある。「絶対にうそをつかない」ということだ。

人はなぜ、うそをつくのだろう。私は、格好悪い自分をかくすためにうそをついた。

以前、テストで悪い点数を取ってしまったことがある。頑張って勉強した結果、悪い点数を取ってしまったのではなくて、他のことを優先してしまい、ちゃんと勉強しなかった結果の点数であることは、自分自身がよく分かっていた。なにも言い訳する言葉が見つからず、思わずかくしてしまったのだ。

この本に出てくる日色のように、私も面倒なことがあるとにげてしまうくせがある。目の前にある問題から目をそむけてしまう私は、まさに「チキン」なのだ。

だが、曲がったことが大きらいで、言いたいことはなんでもはっきり言う、うそのない真中さんはとても格好いい。

真中さんにはあって、私に足りないものはなんだろう。この本をくり返し読みながら、ずっと考えていた。

かくしていたテストがお母さんに見つかってしまったとき、お母さんは悲しそうな顔をしていた。悪い点数を取ってしまったことについては、一切おこらなかった。ただ、テストをかくしてしまったことについてだけ、それは自分のためにならないんだよ、ということを教えてくれた。

私は、悪い点数を取ってしまったこと、かくしていたテストが見つかってしまったこと、なにも言い訳することができない自分が情けなくて、格好悪くて、涙が止まらなかった。

けれど、この本に出会って、もっと大切なことに気付くことができた。

一番格好悪いのは、テストをかくしてしまった自分だ。うそをついてしまった自分なのだ。

真中さんは、亡くなってしまったお母さんとの約束をずっと守っている。例え約束をやぶっても、もうおこられることはないけれど、それでも約束を守り続けている。

それは、お母さんのためではなくて、きっと自分自身のためなんだと思う。

真中さんにはあって、私に足りないものの答えがようやく分かったような気がした。

約束は、誰かとするものではなくて、きっと自分自身とするものなんだ。

だから今年の夏、改めて自分自身と約束した。「もう絶対にうそはつかない」と。

にげることは簡単だ。でも、例え失敗してもまた同じ失敗をしなければいいのだから、格好悪い自分も受け入れようと思った。「チキン」な私から卒業しよう。

夏休みになると、読書感想文に取り組むことが私の楽しみになっていた。様々な本に出会い、色々なことを考え、自分でも気付かなかった自分自身とも出会い、向き合うことができた六年間。大切な夏の思い出だ。

小学校最後の夏に出会った「チキン！」も、私にとってかけがえのない一冊となった。

いとう　みく　著
『チキン！』
（文研出版）

北海道知事賞

続けることで見えてくること

旭川市立神楽中学校　２年　中　島　瑠　花

三・一四一五九二…。限りなく続く数字、円周率。この数字に興味を持ったり、本当かどうか確めようとする人がいるだろうか？私にとって『三・一四』は習ってそのまま覚えただけの数字にすぎない。

円周率が江戸時代からすでにあったことをこの本を読んで初めて知った。江戸時代のものは『三・一六』と、今使っている数字よりも少し大きい円周率だった。

この物語の主人公、関孝和は江戸時代の武家の次男。武士として身につけなければならない漢文や剣術は嫌いだという人物。しかし、数学が大好きで問題を解くのが楽しくてしかたがないという変わりだねなのだ。夢中になりすぎて、兄永貞に叱られることもあった。数学のとりこになっているといってもよいような人だった。孝和は数学を教えてくれる塾へも通っている。ある時、寺に奉納された算額を見に行き、円の問題が書かれているのを発見する。このことがきっかけになり円周率にひかれていったのだ。

私は、数学が嫌いではないが得意でもない。教えてもらうことに何の疑問も持たず、問題が解ければ、それで良いと思っていた。計算に必要な公式も、問題を解くためにまる覚えしてきた。どうしてそうなるのかなど深く考えた事がなかった。でも、本当は覚えることより、なぜかを考えることが大切なのではないかと思う。時間をかけてでも。孝和は円周率の謎解きを生涯続けていたのだから。

この本の中に江戸時代初期に出版された『塵劫記』という算学の教科書の話が出てくる。孝和が数学を好きになるきっかけの教科書だ。ひらがなが多く、細かい絵もたくさんある。それを見たら算数というのを忘れて、思わず読んでみたくなりそうだ。それだけでなぜか私にも簡単そうに見えるから不思議だ。今、使っている問題集にも絵やていねいな文章がついていたら、数学が好きになれるかもしれないと考えたりした。

ものごとを好きになれるきっかけは色々あると思う。興味を持つことになったはじまりというものがあると思う。そこに気づけるか気づけないかでその後が変わってくるのではないだろうか。私はまだ数学に関して、そのはじまりを見つけられていないのだろうか。見つけられたら数学が大好きになれるのだろうか。

数学の塾の先生には、香奈という娘がいた。香奈が孝和に考えるヒントになるような言葉をかけてくれたり、一緒に考えてくれたりする。円周をまち針と糸で実際に測って、直径との割合を糸の長さに置きかえてみる場面がでてくる。一人で考えつかないことも、二人三人と集うことで新しい発見もできることを改めて知ることができた。遊学した時にも同じ興味を持つ仲間と出会い考えを広げていく。仲間との交流で孝和は、同じ問題でも違った解き方があることに気付くことができたのだった。

学校生活の中では人と関わる機会がたくさんある。授業でも周りの人とグループを作り互いの考えを話し合う時間がある。その中で違う考えを聞いたことで、考え方が変わったり、新たな発見をすることがある。グループ学習は必要なことなのだと思った。

孝和の一生はすべて幸せに終わってはいなかった。好意を寄せていた香奈とは結婚することはできなかったし、子どもも、自分より先に病気で亡くしてしまう。そんな中でも、好きな事を忘れず、あきらめないのだ。孝和の好きな事‥‥それは数学だったのだ。

私は、そこまで数学を好きになれるだろうか。一生数字を考えていく‥‥そこまでにはなれないように思う。しかし、難しく考えすぎず、楽しいものとして考えるヒントをもらえたように思う。

私の好きなことは何だろう。今、これだけはずっと続けていきたいと思えるのは剣道だ。五年生の夏から始めて三年目になる。周りと比べると遅いスタートだと思う。今、私の通う少年団に中学生はいない。小学生や先生方と稽古をしている。今の稽古にもの足りなさを感じることがある。中学生と稽古がしたいと考え、出稽古に行かせてもらっている。その中で、色々な人や先生に出会ってきた。年の近い友達ができたことで、より剣道が好きになった。楽しくもなった。先生たちの一言一言に発見があった。色々な人と関わることで、剣道を続けたいという私の気持ちができてきたのだ。

これから、剣道以外にも続けていきたいと思えることに出会うかもしれない。将来何をしたいかはまだはっきりとしていない。けれど、あきらめずに一つのことを続けていくことが大切なこと、覚えることも必要だけれど、考えることが重要なこと。それはどんなことをするにしても同じなのだと思う。

出会いやきっかけを大切に、常に深く考えることを心がけたい。孝和のように。

鳴海　風　著
『円周率の謎を追う
江戸の天才数学者
関孝和の挑戦』
（くもん出版）

北海道知事賞

未来の私のライフ

遺愛女子高等学校　２年　館　山　紋　奈

「スイカ！？」夏休みに入りぼんやりと庭を眺めていた私は、思わず大声を上げてしまった。庭に直径およそ十五センチメートルの白っぽい球体が転がっていたのだ。全然気が付かなかった。大好物のスイカの生り方に驚くと同時に、自分の家の庭で何を育てているかさえ知らなかった自分に我ながら呆れた。

小さい頃は父と一緒に様々な野菜を育てていた。トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、ズッキーニ…。しかし、最近は忙しさにかこつけて食べる専門となっている。蜘蛛の巣に引っ掛かったり、蚊に刺されたりするのも嫌なので、収穫のお手伝いも極力避けている。

「『地球に優しく』だの『食の安全を守れ』だのと、かけ声ばかりあげているうちにも、作物が消えていく。かけ声と理屈だけで、誰も土にまみれようとしないからだ。」自分が言われているような気がしてどきっとした。学校で、第一次産業の就職率はおよそ五％だと習った。それが深刻な数字だというのは分かっている。それでも、自分のことは棚に上げ、誰かやってくれればいいのにと思っていた。

この本の主人公、恵介も初めは農業に乗り気ではなかった。しかし、グラフィックデザイナーという本業があるにも関わらず、父親が倒れたので、家業の農家を手伝わなければならなくなった。「正直に言おう。農家を継ぎたくなかったのはかっこ悪いからだ。」恵介は言った。この気持ちは私にも分かる。私の父はガソリンスタンドを営んでいる。亡くなった祖父の代から始まり、父が継いだのだ。小さい頃の私の夢は「館山石油を継いで、館山紋奈石油にすること」だった。これには祖父も強面の顔をくしゃくしゃにして喜んでくれた。「紋奈なら腕白だから向いているかもしれねぇ。」と祖父は言った。小学生になり、友達に親の職業を聞かれ、「ガソリンスタンドだよ。」と私は誇りを持って答えた。私は友達の返答にショックを受けた。「え、大丈夫なの？ガソリン、なくなっちゃうよ。大変だね…。」そのような事もあり、私は家業をかっこいいとは思えなくなってしまった。私も恵介と同じく、親の職業を記さなければならない際には「自営業」と書くことも多々ある。

嫌々ながら実家の農家を手伝い出した恵介だったが、だんだんとイチゴづくりに熱中していく。様々な困難を乗り越え、最後には望月イチゴ狩り農園を開園させ、外国にイチゴを売り始める事にも成功した。彼の勝因は何だったのだろう。まずは責任感。彼がやらなければイチゴは枯れてしまう。何事も正面から向き合う事が大切だ、と言うのは手垢にまみれた言葉ではあるが、本当にその通りだと思った。私も、農業従事者の減少を嘆いてばかりいないで、まずは家庭菜園のお手伝いから始めてみようかな。そして周りをもう一度見てみた事も勝因の一つだ。私は何かにつまずいた時、環境のせいにして何もしないで終わってしまう事がある。しかし彼は周りを観察し直す事で、目の前にある「富士山」を再発見した。ヒントは見つけるのが難しいだけで、いつも意外と身近にあるのかもしれない。

恵介の勝因は他にも幾つか挙げられるだろうが、そのなかでも周りの人の協力は必要不可欠だったのではないかと思う。考えてみれば、私の父の会社も周りの沢山の人の協力で成り立っている。私もそう実感した出来事があった。祖父が亡くなった時の事だ。祖父は館山石油を大切にしていたから、最後に一目見せてあげたい。親族はそう一致し、祖父の遺体を乗せたバスは館山石油のスタンドの前を通った。すると、従業員の皆さんが、タンクローリーをきれいに並べ、その前で涙をこらえた表情で整列してバスが通るのを待っていてくれたのだ。私はいつも美しい風景や美味しい料理など心に残ったものはすぐにスマホで写真を撮るのだが、その時は撮る事が出来なかった。それほど感動したのだ。館山石油、いいな。単純にそう思った。父の代で終わらせるのは、少し惜しいような気もした。

人にはそれぞれ為すべきことがあるのだと思う。恵介の場合、それはイチゴを育てる、ストロベリーライフだったのだろう。私の父はガソリンライフかな？私は何ライフだろう。今のところはメディカルライフを希望しているが、もしかしたらガソリンライフになるかもしれない。想像が膨らみ、何だかワクワクする。農業もガソリンスタンドも人気のない職業なのかもしれないが、自分を含め必要としている人がいる限り、誰かがやらなくてはならない。「誰が何と言おうと、仕事は、毎日は、楽しんだもの勝ちだ。同じことをするなら、楽しくやろう。辛さも笑い飛ばしてしまおう。」恵介は言った。人生はたったの一回きり。せっかくなら楽しく生きたいと思う。これから人生の選択をしなければならない場面は沢山あるだろう。それらと真摯に向き合い、自分の為すべきことを探っていこうと思う。方向転換をする事があっても大丈夫。私にしかできない事がきっとあるはずだから。

荻原　浩　著
『ストロベリーライフ』
（毎日新聞出版）

北海道議会議長賞

「ほしてみた」

苫小牧市立若草小学校　２年　佐　藤　瞭　真

「やったあ、当たりがいっぱい入っている。」朝ごはんでフルーツグラノーラが入ったヨーグルトを食べる時、いつもいもうととこんな話をしています。当たりとは、グミのようになっているレーズンやりんごのことです。「でも、このレーズンやりんご、どのように作っているのだろう。」本やに行くと、当たりがいっぱいのっている本を見つけました。本のだい名は「ほしたから」「ほすってどういうことか分からないな。」気になったぼくは、さっそく本を読むことにしました。

本を読むと、見たことがあるものとないもののしゃしんがたくさんのっていました。食べものをほすことで、かるくなる、くさりにくくなる、あじがかわることが分かりました。お母さんの買いものについて行き、うっているほしたものをさがしてみると、たくさんあることにおどろきました。うっているほしたものを見ながら、「やってみよう」というページがあることを思い出しました。自分でもこのうっているものと同じように、ほしたものが本とうにできるのかなと思ったので、おとうさんとほしてみることにしました。

ほしたものはミニトマト。おとうさんは、はん分に切っていましたが、ぼくは大きなほしたものにしたかったので、そのままほしあみに入れました。夕方に見に行くと、ぼくのミニトマトはあまりかわっていませんでした。どうしてぼくのミニトマトは小さくしわしわにならなかったのだろう。りゆうが知りたくて、もう一ど本を見てみました。本をよく見ると、ほとんどのものが半分に切られてほしてありました。しゃしんをくらべてよく見ると、ほしかたもいろいろとくふうされていることに気がつきました。本にのっている人たちもきっとぼくと同じようにしっぱいをしたのだろう、何どもしっぱいしてよいほしかたを学んだのだろうと思いました。

ほしたミニトマトを家ぞくと食べました。「あまい。」当たりが一つふえました。

森枝　卓士　著
『干したから…』
（フレーベル館）

総　評

審査委員長　三浦　正志（札幌市立前田中学校長）

本年度の第63回青少年読書感想文全道コンクール、第43回北海道指定図書読書感想文コンクールには、全道各地から663点の作品が寄せられました。各支部で厳正に審査され選び抜かれた作品が揃いました。子どもたちが読書を通して自分を見つめなおし、素直に感動を表現することができた作品ばかりでした。応募してくれた児童生徒のみなさん、指導に当たられた先生方、子どもたちにさまざまな示唆を与えてくださった保護者の方々に感謝申し上げます。総勢25名の審査員が５部門に分かれて最終審査を行いました。本年度も熱心な話し合いのもと厳正に審査を行いましたが、たいへん時間がかかりました。

小学校低学年の作品では、その本から受けた感動を率直に、とても素直に低学年らしい言葉で表現しているものが多かったです。小学校中学年の作品では、その本との出会いがきっかけとなり疑問に感じたことを調べて理解を深めたり、自分の経験と重ね合わせて感動を表現していました。小学校高学年の作品では、作品世界を十分理解したうえで、さらに自分の考えを深め、感動を表現しているものが多かったです。中学生の作品では、読書による追体験を通して自分の将来を見つめ、自分自身への理解が深まり、そこから受けた感動を表現していました。高校生の作品では、推敲を重ね、より自分の考えを適切な言葉を使って表現していて、感動がストレートに伝わってくるものが多かったです。

それぞれの学年に応じて、本との出会いによって、その感動から将来の自分の姿をイメージし、なりたい自分やこれから何に取り組むかなど、さまざまな考えを持つことができて、より感性が磨かれるのだと思います。それを言葉に表して綴ることが読書感想文なのです。これからも多くの児童生徒のみなさんにとって本との出会いを通して感性をより豊かなものにするために、このコンクールがきっかけとなってくれればと願っています。

北海道議会議長賞

とらえられたイルカ

音更町立木野東小学校　３年　清　水　陸　叶

「水ぞく館にいるイルカは、海から来るまでに、いろいろな目にあっているんだ!!」

ぼくは、この本を読んで、まるでこわい夢を見たような感じがした。作り話かと思っていたが、調べてみると本当だった。今でも、イルカの「囲みりょう」や「突きんぼうりょう」が行われていた。しかも、生けどりにされたものや、金もうけのために売られていたものが、水ぞく館のイルカだった。そして、昨年度、日本が約一万五千頭、北海道で約千頭のイルカをほかくし、世界一であった。このことが、世界や日本国内でも残こくであると非なんされ、社会問題となっていることがわかった。ぼくは、今までのように、水ぞく館へ大好きな家ぞくに会う気分で、行けなくなってしまった。

ぼくは、イルカの「キーキー」というかわいらしい鳴き声、天井のボールめがけた高いジャンプ、頭の上のはなでプファッと出す息、ちょっとはなれた目、フニッとした口…好きすぎて、本当に家ぞくだと思っていた。でも、一方的に好きなだけで、水ぞく館までの道のりや水ぞく館での気持ちを考えたこともなかった。

イルカりょうについて知って、ぼくは、

「もっとやさしく、少しだけにすればよいのに!!逃がしてやってもいいのに!!」

とさけびたくなった。理由としては、第一に、イルカは、人間と同じように感情を持つ動物であるといわれているから。血まみれになったり、苦しんだりするのは、残こくだ。ましてや、むれの仲間が苦しむ姿を耳で感じて、パニックになってしまうとなると、いたたまれなくなってしまう。だから、もっとやさしくしてほしい。第二に、天然のイルカに会うことは、むずかしいから。ぼくは、知床へイルカめあてに行ったことがあるが、会えなかった。あたたかい時期でも、月に二～三回位だそうだ。研究になる場合であれば、必要な分だけにしてほしい。第三に、逃がす方法はないのだろうかと考えたから。この話のように、他のりょうの迷わくになる場合に、他の地いきへゆうどうする方法はないのだろうか。

水ぞく館にいるイルカの気持ちは、

「会えてうれしいよ。来てくれてありがとう。」と、ぼくと同じくよろこんでいると思っていた。本当の家ぞくとはなればなれになってしまった気持ちや、海に戻りたい気持ちを考えたこともなかった。ぼくの想ぞうをはるかにこえていたので、頭を金づちでたたかれた気分で、何も考えられなくなってしまった。大好きなイルカのことなのにわからなくて、自分が少しはずかしくなってしまった。

この本を読んで、社会問題や気持ちを考えるきっかけになった。もしかして、ふだん楽しく生活している中で、気づかないところで社会問題といわれていることがあるのかもしれない…自分だけが楽しくて、友だちや家ぞく、周りの人の気持ちを考えていなかったのかもしれない…目の覚める思いがした。

椋　鳩十　著

『白いなみ白いなみイルカが行く』

（フレーベル館）

平成29年度　北海道の先生がおすすめする本

北海道指定図書

小学校低学年の部

ソーニャのめんどり

フィービー・ウォール／作
くもん出版　定価1,400円+税

大事なめんどりが襲われ、悲しみでいっぱいのソーニャにお父さんが伝えたこととは…。命のつながり、親子の絆を描く。

おばあちゃんとバスにのって

マット・デ・ラ・ペーニャ／作　クリスチャン・ロビンソン／絵
鈴木出版　定価1,500円+税

雨の日曜日、おばあちゃんと二人でお出かけ。道々のおばあちゃんの魅力的な言葉で、ジェイの心は豊かになっていきます。

すばこ

キム・ファン／作　イ・スンウォン／絵
ほるぷ出版　定価1,500円+税

すばこは、人が作った鳥の家です。でも、何のためにだれが作ったのでしょう。すばこのはじまりと楽しみ方を伝えます。

とびっきりのともだち

エイミー・ヘスト／文　エイミー・ベイツ／絵
BL出版　定価1,400円+税

海辺でひとり遊ぶ少年の足元に寄ってきた迷い子犬。愛犬を失い悲しみを抱えていた少年は、子犬とふれあううちに心を開いていく。

小学校中学年の部

ひまなこなべ　アイヌのむかしばなし

萱野　茂／著　どい かや／絵
あすなろ書房　定価1,400円+税

アイヌではクマをしとめると、感謝の気持ちをこめて宴を開きます。万物を大切にするアイヌの思いがよく描かれている美しい絵本。

このあとどうしちゃおう

ヨシタケ シンスケ／作
ブロンズ新社　定価1,400円+税

しんだらどうなる?どうしたい?ぼくだったら、どうしちゃおうかな。いま、いきているあいだにかんがえてみよう!

警察犬になったアンズ
命を救われたトイプードルの物語

鈴木 博房／著
岩崎書店　定価1,300円+税

殺処分寸前、訓練士に引き取られ試験に見事合格!才能を開花させていく様子を通して、あきらめずに、がんばる大切さを伝える。

小学校高学年の部

ハーネスをはずして
北海道盲導犬協会の老犬ホームのこと

辻　惠子／著
あすなろ書房　定価1,300円+税

世界初の老犬ホームで働く著者が、ホーム設立のいきさつから犬とのつらい別れまで、知られざる犬との日々を綴った感動のエッセイ。

レシピにたくした料理人の夢
難病で火を使えない少年

百瀬 しのぶ／文
汐文社　定価1,400円+税

難病の母に代わり6歳で台所に立った昇兵。しかし彼も母と同じ病気にかかり…。形を変えても夢を追い続ける勇気の物語。

いつも心の中に

小手鞠 るい／作
金の星社　定価1,300円+税

愛する人との突然の別れ…。心を閉ざしてしまった少女が悲しみを乗り越えていく姿を描いた、家族の絆の物語。

中学生の部

知里幸恵物語
アイヌの「物語」を命がけで伝えた人

金治 直美／著
PHP研究所
定価1,400円+税

「アイヌ神謡集」を日本語に訳し、アイヌ文化を生涯かけて守ろうとした知里幸恵。彼女のひたむきな生き方を紹介。

駅 鈴（はゆまのすず）

久保田 香里／作
くもん出版　定価1,600円+税

メールも電話もない時代。馬に乗り、駅鈴を鳴らし、急を告げる人々がいた。古代道路を疾走する、奈良時代の青春物語。

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。
詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。
●ホームページ
北海道学校図書館協会　検索

北海道の本を読みましょう!

第63回　青少年読書感想文全道コンクール
第43回　北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催／北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社　■後援／北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会
■選定協力／北海道読書推進運動協議会

優 秀 賞

小学校（低学年）の部（12名）

作品名	氏名	学校名	学年
・「しっぱいはのりこえる！」	千葉好香	岩見沢市南小	２年
・「ぼくは四十六おくさい。」を読んで	渡邊咲子	函館市北美原小	２年
・「びゅんびゅんごまがまわったら」をよんで	小林弘人	岩見沢市第一小	２年
・まもりたい小さないのち	野々村玲風	留萌市留萌小	２年
・しぜんはみんなのもの	岡崎音花	室蘭市八丁平小	２年
・「すばこ」を読んで	渡部逞	小樽市花園小	１年
・アランからまなんだこと	四方奏	室蘭市八丁平小	１年
・「アランのははでっかいぞ　こわーいぞ」をよんで	齊藤禅	函館市千代ヶ岱小	１年
・かわいいめんどり	福井椿	知内町湯ノ里小	１年
・いのちをうけつぐ	岩本亜澄	札幌市福住小	２年
・「おばあちゃんとバスにのって」をよんで	塩谷桜彩	室蘭市八丁平小	１年
・「おばあちゃんとバスにのっての本に出会って」	近藤芦羽	苫小牧市泉野小	２年

小学校（中学年）の部（12名）

作品名	氏名	学校名	学年
・「ちいさなちいさなめにみえないびせいぶつのせかい」を読んで	林凌太郎	函館市北美原小	３年
・「認知症」ってなんだろう	吉田新	室蘭市高砂小	４年
・世界一の二人	井上裕太	室蘭市八丁平小	３年
・みんなのとりあつかいせつ明書	細井新	苫小牧市苫小牧東小	３年
・「わたしの仲間せんげん」	河毛優芽	苫小牧市錦岡小	３年
・ウィリアム・ホイから学んだこと	長井悠	室蘭市高砂小	４年
・「耳のきこえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ」を読んで	鈴木悠平	苫小牧市緑小	３年
・食べ物に感謝や愛をもって！	近藤慶音	北斗市谷川小	４年
・「このあとどうしちゃおう」を読んで	小松奏太	室蘭市八丁平小	３年
・大切にすること	木崎咲枝	北斗市浜分小	４年
・「このあとどうしちゃおう」	宮本蒼	函館市北美原小	３年
・「このあとどうしちゃおう」を読んで	坂田莉那	北斗市萩野小	３年

小学校（高学年）の部（12名）

作品名	氏名	学校名	学年
・天国の日野原先生へ	亀山寧々	教育大附属札幌小	５年
・天国にとどけ！ホームランを読んで	斉藤蓮	苫前町古丹別小	５年
・「アンネの日記」を読んで	龍山咲希	小樽市最上小	６年
・テオの『ありがとう』ノート	野崎幸子	札幌市山の手小	６年
・「大丈夫」は魔法の言葉	佐伯愛花	留萌市東光小	５年
・「チキン！」を読んで	山口美咲	苫小牧市明野小	５年
・義足で未来を支える人達	松永凛汰朗	北斗市浜分小	６年
・「チキン！」を読んで	石塚和佳奈	函館市北美原小	５年
・「あきらめない心の強さ」	齊藤大翔	小樽市緑小	６年
・すべての犬に幸せを	石川琴蓮	砂川市空知太小	６年
・レシピは残る	松田莉奈	札幌市宮の森小	５年
・夢を持ち続けることの大切さ	長谷川瑛生	帯広市つつじが丘小	６年

優 秀 賞

中学校の部（15名）

作品名	氏名	学校名	学年
・自分の夢ってなんだろう？	丸山茉綾	遺愛女子中	３年
・「子どもにはペンを」	刈屋悠歌	登別明日中等教育	2回生
・「どうせ無理」と思っても	碇谷陽	雄武町雄武中	２年
・『神様のカルテ２』と私	皆上祐嘉	砂川市石山中	２年
・未来へのバトンをつなぐ	上坂蒼波	滝川市明苑中	３年
・「置かれた場所で咲きなさい」を読んで	男澤和果	岩見沢市光陵中	２年
・「選択」と「出会い」	松尾里咲	岩見沢市光陵中	３年
・「風に立つライオン」を読んで	森田汐音	岩見沢市上幌向中	３年
・人と自分を比べなくていい。	松田百花	岩見沢市緑中	３年
・「一瞬の風になれ」を読んで	山本雪乃	七飯町七飯中	２年
・私の友だちー「きみの友だち」を読んで	宇野天那	音更町下音更中	２年
・願いの効能	阿部菜々美	三笠市三笠中	２年
・小さな地球から無限の宇宙へ～私の未来図～	伊田紗雪	札幌市簾舞中	１年
・「知里幸恵物語」を読んで	品川咲季	小樽市菁園中	１年
・強い信念を持って	渡邉光麗	札幌市向陵中	１年

高等学校の部（15名）

作品名	氏名	学校名	学年
・神を信じる心の強さ	長坂恭子	足寄高	３年
・信仰の心理～私の中のキチジロー～	瀧田小麦	札幌聖心女子高	２年
・「人間」と「宗教」の関わり	大久保絵未	札幌聖心女子高	２年
・心からの「ではまた明日」	三田舞	帯広三条高	２年
・「君の膵臓をたべたい」を読んで	峠さくら	岩見沢東高	１年
・「感動の条件」を読んで	野本萌絵	岩見沢東高	１年
・『ツバキ文具店』を読んで	髙橋希実	士別翔雲高	１年
・『置かれた場所で咲きなさい』との出会い	本間雛子	旭川藤女子高	２年
・生きる上での大切さ	秋葉紗世	留萌高	２年
・「余命十年」を読んで	池田かなは	留萌高	２年
・闘病する子供達	通﨑綾	岩見沢東高	１年
・家族の存在	髙本真生	函館商業高	２年
・食と僕、それぞれの未来	宮崎歩	旭川東高	１年
・夢を育てる。	河野月虹	函館西高	１年
・何のために勉強するんだろう？	二階堂ゆうな	遺愛女子高	１年

◆感想文集『北海道の読書』（平成29年度版）の普及を

第63回青少年読書感想文全道コンクール入賞作品集

○小学校版（1,000円）
特別・優秀・優良　入賞者全作品を掲載

○中学校・高等学校版（1,000円）
特別・優秀・優良 入賞者全作品を掲載

【申し込み・問い合わせ先】
北海道学校図書館協会ＨＰ ＞ 読書感想文コンクール ＞ 北海道の読書 ＞ 学校宛・個人
札幌市立西岡南小学校　教諭　佐藤秀則　　FAX　011-582-1590

優　良　賞

小学校（低学年）の部

小樽市緑小	2年	荒又　紗良
函館市中の沢小	2年	林　　煌太
函館市北美原小	2年	福澤　希彩
士別市士別小	2年	中川智咲子
苫小牧市苫小牧東小	2年	糸　もに果
苫小牧市明徳小	1年	岩城　道人
北斗市萩野小	1年	神崎　吏玖
小平町小平小	1年	髙市　莉乃
教育大附属旭川小	1年	富居　玲衣
札幌市桑園小	1年	上西ゆりあ
苫小牧市沼ノ端小	1年	佐々木真結
室蘭市水元小	1年	南川　安菜
苫小牧市ウトナイ小	1年	久保　惺菜
苫小牧市明徳小	2年	山水　恋和
函館市青柳小	2年	長尾　美咲
室蘭市海陽小	1年	メレ真莉香
滝川市西小	1年	朝岡　菜夕
旭川市西御料地小	2年	西野目実亜
留萌市港北小	1年	米田和々花
小樽市緑小	2年	河邉　英大

小学校（中学年）の部

小樽市緑小	4年	斎藤　健翔
岩見沢市岩見沢小	4年	江藤　菖音
苫小牧市明野小	4年	髙岡　美桜
羽幌町羽幌小	3年	亀谷　生吹
小樽市緑小	4年	大嶋わかな
小樽市緑小	3年	岩松　莉香
函館市弥生小	4年	竹崎　泰史
函館市旭岡小	3年	三村　真奈
室蘭市水元小	4年	神野　　花
小樽市緑小	4年	檜田あかね
函館市北美原小	4年	西﨑　恭祐
函館市金堀小	3年	井上　　綱
小樽市幸小	3年	髙木　清登
留萌市留萌小	3年	髙橋　夏織
苫小牧市大成小	4年	服部　虹太
増毛町増毛小	4年	猪股　星奈
札幌市北野台小	4年	渋谷　結愛
室蘭市海陽小	4年	工藤　航樹
教育大附属函館小	3年	吉田　昂良
岩見沢市中央小	3年	保科こころ

小学校（高学年）の部

室蘭市本室蘭小	5年	髙木　悠矢
小樽市緑小	5年	押川　　心
旭川市東五条小	6年	谷脇　萌香
帯広市豊成小	6年	西科　莉來
室蘭市旭ヶ丘小	5年	櫻井　智里
室蘭市白鳥台小	6年	畠山　正己
函館市北美原小	5年	千葉　紗弓
函館市港小	6年	小川　愛未
室蘭市八丁平小	5年	及川　叶愛
函館市深堀小	6年	上貞　友鶴
函館市北美原小	6年	齊藤　優那
旭川市緑新小	6年	奥野　隼輔
札幌市大谷地小	5年	原田　　葵
北斗市浜分小	6年	日登　理乃
小樽市緑小	6年	小川　弓來
函館市えさん小	6年	一家　一心
滝川市東小	6年	川﨑　満桜
知内町涌元小	6年	成澤　　綸
小平町小平小	5年	堺田　莉央
旭川市永山小	6年	川上　悠斗

中学校の部

遺愛女子中	2年	大口　茉奈
函館市亀田中	1年	平松　明華
旭川市江丹別中	3年	松井　佳映
登別明日中等教育	1回生	赤根　彩波
登別明日中等教育	1回生	赤石明香里
登別明日中等教育	1回生	脇坂　亜紀
砂川市砂川中	3年	浦　　綺花
砂川市砂川中	3年	岡　　颯希
砂川市砂川中	3年	東海林愛紘
藤女子中	1年	塚本　麻衣
札幌市西陵中	1年	安住　佳穂
岩見沢市光陵中	3年	佐藤那留采
士別市士別南中	3年	田口　湧大
七飯町七飯中	2年	田中　温大
鹿部町鹿部中	2年	西村愛美花
函館市桔梗中	3年	鳴海　清花
遺愛女子中	2年	丸山　紗世
札幌市向陵中	1年	松山　玲子
札幌市平岡緑中	1年	小田桐芽衣
砂川市砂川中	2年	伊藤　柚葉
教育大附属函館中	1年	小川　結稀
教育大附属函館中	2年	秋江　　峻
網走市第三中	1年	田中　飛鳥
小樽市菁園中	1年	柏木　碧海

高等学校の部

鹿追高	3年	宇田　優奈
函館商業高	1年	大瀧　瑠依
岩見沢東高	1年	本郷さくら
士別翔雲高	3年	矢野　幸奈
士別翔雲高	2年	鷲見　更紗
旭川永嶺高	1年	山田　愛加

第40回北海道子どもの本のつどい　―網走大会の報告―

北海道子どもの本連絡会運営委員　今　本　　明

「北海道子どもの本のつどい網走大会」は、2017年８月19日（土）、20日（日）に網走市で開催されました。19日の基調講演は、道の指定図書にも選ばれた『生きるー劉連仁の物語』を書いた森越智子さんと、『もりのやきゅうちーむ　ふぁいたーず』でおなじみの絵本作家の堀川真さんという道内で活躍する二人の作家のお話と対談です。大会テーマの「生きる力を育む」を意識されて、戦争のこと、人権のこと、人間らしく生きるということ、そして子育ての苦労と楽しさなど、盛り沢山の内容で素敵な時間を過ごすことができました。

この大会が、長年柱の一つとしている「学校図書館」の分科会は、次の日の20日に行われました。運営を「学校図書館研究会inオホーツク」の皆さんが担当してくれて、北見・網走での先進的な取り組みをしている学校図書館司書の方々から、実践発表がありました。

北見市からは、初めは一名しか置かれなかった学校司書ですが、初代の榎本香苗さんのねばり強い頑張りで今は四名の配置となった経過の報告と、それまでの実践の発表。同じく北見の学校司書の大澤知世さんから、実践の発表と学校司書同士の交流や支援の紹介がありました。

続いて、網走の学校図書館司書の石山佳奈美さんと浜田冴子さんから、小学校・中学校でのそれぞれの取り組みの発表がありました。「読書で学力向上」を目指して学校図書館司書を採用した網走市の姿勢を興味深く感じました。うらやましいのは両市とも、数名とは言いながらきちんと学校図書館司書が採用されているという実態です。ぜひ、他の市町村への良き先例、刺激となってもらいたいものです。

分科会の最後は、網走市の小学校で図書館ボランティアをされている加賀田聡美さんと志賀博子さんの実践紹介です。図書館司書が配置される前から、学校で確かな活動を続けてきた方たちの、このような豊かな取り組みがあったからこそ、学校図書館とそれを機能させる学校図書館司書の必要性を行政も認識したのだろうと思いました。分科会の話し合いの中で、代用教員よりまだ不安定な学校司書の身分に触れて、「学校司書を、夢のある職業に」という発言も出て、その重要性、必要性を再認識できた分科会になりました。

北海道高等学校文化連盟
第39回全道高等学校図書研究大会（釧路大会）報告

今年の図書全道釧路大会は9月28日（木）・29日（金）、「『つながる』学校図書館－本と人とのかけ橋に」をテーマに開催されました。全道96校の図書局員・図書委員の生徒418名、教職員122名の計540名が研修、交流活動に参加しました。

「T-1グランプリ2017」

1日目は釧路明輝高校吹奏楽部の歓迎演奏に続き、「図書館活動（T-1）グランプリ2017」です。エントリー24校が製作した図書館での生徒活動の様子や成果をアピールするポスター発表による一次予選を突破した11校が、ステージ上で5分間のプレゼンテーション発表を行いました。昨年度グランプリの石狩南高校のメンバーが運営を担当、ステージを大いに盛り上げます。ビブリオバトルや朗読大会、演劇部や合唱部などとの合同企画の様子や、新聞を使った（NIE）学習活動や英語多読の取り組み、さらには絵本図書館や大学、小学校との地域連携の報告など発表は多岐にわたり、そのパフォーマンスもかぶり物に始まり、寸劇やインタビュー方式、図書館報づくりの再現や、はたまた体力勝負など各校工夫を凝らし客席を大いに沸かせるものでした。会場の生徒の投票により、今年度のグランプリは釧路江南、準グランプリは札幌新川、札幌手稲の2校が選ばれました。

午後からは12のテーマに分かれての分科会です。理想の図書館づくりを考えたり、分類や館報づくりの基礎を学んだり、ビブリオバトルや下の句かるたに挑戦したり、さらには北方領土問題や美術探索など釧路地区協力校の運営による多岐にわたる研修です。釧路文学散歩の分科会の様子はNHKのニュースで放映されました。

引率顧問を対象にした図書館担当者研修会では、日本図書館協会元事務局長の松岡要氏に「学校図書館、『役割』と『ひと』」と題してのご講演をいただきました。改正学校図書館法について本道で学校司書の配属が遅々として進まない現状を踏まえ、全国の情勢に触れつつ、学校図書館の役割や機能についての認識、自治体の責任も示していただき、学校図書館を支えるのはやはり「ひと」に他ならないという確信を得ることができました。

2日目は「言葉の不思議」の演題で歌人穂村弘氏による記念講演。大会の最後には図書館報コンクールの表彰があり、参加38校の中から最優秀賞として札幌南、優秀賞として釧路湖陵、札幌月寒、札幌藻岩の3校、そのほか優良賞4校、奨励賞10校が表彰されました。

審査委員長の武田克伸先生（東海大学札幌キャンパス）は、様々な制約の中、図書館報を作り続けている各校図書局員の努力を「全国屈指のレベル」と讃えるとともに、借りてきた言葉ではなく、自分自身の感動や経験による伝えたいことを、読む人の立場に立って訴えることが大切で、そのためにも全道全国の学校と交流するなど視野を広げてほしいと講評を述べられました。

本大会は、学校図書館を生徒が主体的な活動や学びの場として盛り上げていこうとする取り組みをお互いに報告しあい、交流しあう貴重な場です。その活動は全国の高文連組織からも注目され、広がりを見せようとしています。来年は札幌での第40回大会です。全道多くの学校で生徒が生き生きと素敵な図書館づくりに携わり、その実践を持ち寄り、学び合うことのできる大会となりますよう、期待しております。

（文責　北海道高文連図書専門委員　加藤孝志）

学校図書館情報

◆第50回北海道学校図書館研修講座へご参加を！

・日時　平成30年１月９日(火)～11日(木)
・会場　北海道立道民活動センター（かでる２・７）他
・講演　「次期学習指導要領と学校図書館の役割の重要性について」
文部科学省初等中等教育局児童生徒課長
坪田　知広 氏
・講義・実習・討議・交流の充実した３日間
※詳しくは案内要項またはＨＰでご確認ください。

◆第45回中学生作文コンクール審査終了

各地区からの作品応募、審査協力ありがとうございました。「あこがれ」のテーマで、生徒数が減少する中、今年も２万点を越える作品が寄せられました。引き続き、参加校数の拡大と応募数の増加を期待します。

中央表彰式　１月５日(金)　13時開催
北洋銀行セミナーホール
(札幌市中央区大通西２丁目７番地)
・日胆地区：１月11日（木）13時開催
室蘭プリンスホテル４階（桃山の間）
・道南地区：１月12日（金）11時開催
函館北洋ビル８階ホール
・道東地区：１月９日（火）13時開催
北洋銀行釧路中央支店３階会議室
・道北地区：１月10日（水）13時開催
旭川北洋ビル８階ホール

◆第48回学校図書館賞にご応募を！

本賞は次の３区分。応募期間は各部とも2018年１月31日(当日消印有効)＜詳しくは全国ＳＬＡのＨＰをご覧下さい＞

運動の部（学校図書館運動の推進）
・学校図書館運動(読書運動を含む)を積極的に推進し、全県、あるいはある地域の学校図書館を著しく振興させた業績を顕彰します。

論文の部（学校図書館に関する著作・論文）
・学校図書館(読書指導を含む)について体系的にまとめた著作・論文（博士・修士の学位請求論文は除く）で2017年3月1日以降に完成したもの。学校図書館研究および実践の発展に貢献した業績を顕彰します。

実践の部（学校図書館の実践活動）
・学校図書館の経営・運営、読書指導、情報活用能力の育成指導、読書推進活動などにおいて卓越した実践を展開し、学校図書館または子どもの読書の発展に貢献した業績を顕彰します。

事務局

事務局長　黒　澤　敏　行（札幌市立琴似中学校長）
事務局校　札幌市立琴似中学校
〒063-0004 札幌市西区山の手４条２丁目１－１
TEL 011－611－1351　FAX 011－615－9617

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティＢコート」ポリプロピレンフイルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用ください。

キハラ株式会社
〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15
ＴＥＬ（011）857－3331
ＦＡＸ（011）857－5211

◆ 新刊紹介『あとは野となれ大和撫子』 宮内悠介 著
2017年4月21日　角川書店　1600円＋税
ISBN978-4-04-103379-1

中央アジア、環境破壊で今は塩の砂漠と化したアラル海の島にある小国・アラルスタン。名君の誉れ高い大統領が暗殺され、政府の男たちは即逃走！「後宮」と呼ばれる女子教育機関の少女たちが、「仕方ない、私たちで国家やってみる」と立ち上がる。政治家や外交官を目指して学ぶ年齢も人種も異なる彼女たちは、内戦や紛争などで居場所を無くした辛い記憶を抱えている。

大国の思惑と介入、宗教対立、経済問題と環境破壊、民族紛争・・・。今ある現実の問題を下敷きに、知的で勇敢で友情溢れる少女たちの大冒険が描かれる。

編集後記

カレンダーが残り少なくなり、寒さが厳しくなってまいりました。皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか。本号は第63回青少年読書感想文全道コンクールの特集号です。全道各地から届いた読書感想文を読むことで、子どもたちの確かで豊かな本との出会いが感じられ、とても喜ばしく思います。日々ご指導に当たられている皆様のご尽力に敬意を表します。来年も、より多くの子どもたちの、読書感想文コンクールへの参加がありますことを祈念しています。

（編集：杉本　操　村山　知成　野村　邦重　大久保雅人　黒澤　敏行）

ホームページアドレス
http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/